

## 伝統の文化を守る

### 〜倭文織り〜

「楽しみだなあ。今日はどんなものを作るんだろう。」

夏の照りつける日差しの中、隆はらぼーるに向かっていました。今日は「ふるさと教室」で「倭文織り」の作品づくりをするのです。隆は小学校のクラブ活動でも「倭文織り」クラブに参加しており、いつも以上に張り切っていたのです。

#### 倭文織り

楮こうぞやカラムシなどの自然植物繊維せんいを使用した織物。

会場に着くと、何台もの織機しよつきが並べてあり、すでに二十人くらいの小中学生が集まっていました。

「よく来たねえ。」

聞き慣れた声に振り返ると、隆の家の近所に住んでいる寺門さんでした。寺門さんは小学校の織物指導にも来てくださっていて、いつも優しく隆に話しかけてくれます。

「そういえば、寺門さんはどうして倭文織りを始めたんですか。」

「織物についての知識を広める目的の公開講座に参加したのが、始まりかな。『倭文織り』という織物が、那珂市にも存在していたことが分かって、たくさん文献を調べたんだよ。だんだんルーツが分かってきたのだけれど、残念ながら布そのものは発見できなかったの。本物がない中で、倭文織りを復元しようという取り組みは、手探りでの活動がずっと続いたわ。誰にも教わることができないから、自分たちで一つ一つ試行錯誤しこうさくごをしながら復元活動をしていったんです。他県への研修へも行ったわね。」

「なるほど、本物が残っていないのにそれを作り出すというのは本当に大変なことですね。いろいろなことを試した成果として、今の倭文織りがあるのですね。」

隆が感心していると、寺門さんは続けて教えてくれました。

「もっと大変なのは、糸にするまでかなあ…。一年に一回、寒い時期（一月〜二月）にだけ作業をするので冷たい水

## 楮こうぞ

古くから和紙材料として知られており、今日でも和紙の主要原料となっている。

を使うことになり、とても大変なの。原料も楮こうぞから育てているので、夏の暑い時期も楮の収穫や世話に手間がかかるのよ。でも、作品が出来上がったときはとても嬉しいわね。自然の材料を使った作品はやっぱりいいものだからね。手間がかかっている分よけいに嬉しいのよ。」

「一つ一つ原料から作ることに意味があるのですね。」

「そうだね。その嬉うれしさや大変さをみんなに味わって欲しいんだよ。」

寺門さんと話していると、近くにいたおじさんに話しかけられました。『手しごと』代表の田中良治さんです。

田中さんは、教室の初めのあいさつでこんなことを話していました。

「公民館活動として始まったため、現在は那珂市の方のみが参加しています。これからは茨城県内に活動を広げていき、ゆくゆくは全国に『倭文織り』を広めていきたいと考えています。せっかく自分たちの地域に伝わるもの

## 手しごと

那珂市瓜連地区で倭文織りの技術を研究、伝承している市民グループ。



ですから、この先もずっと伝承していきたいですね。近年では、「ふるさと教室」として小中学生に織物を指導したり、オークリッジ交換留学生の体験活動としても取り上げられています。最近とても嬉しいことがありますね。瓜連小学校の児童だった方が、結婚して水戸市に移り住んだのだそうです。その方が自分の子どもを連れて倭文織りの体験に来てくれたんです。地道な活動が少しずつでも実を結べばと考えています。」

「さあ、それでは始めましょうか。」

田中さんの声がかかり、いよいよ倭文織りの教室が始まります。隆は、いつも以上にやる気に満ちて織機に向かいました。

## 倭文織り

倭文織は楮こうぞやカラムシなどの自然植物繊維せんいを使用した織物で、昔朝廷にも献上されていた。倭文織は、中国から北九州に伝わり、こちらに移り住んだ人々により瓜連に伝えられたといわれる。この古い織物を復元しようと活動を続けているグループがある。



瓜連小学校（倭文織りを習う様子）